

要 旨

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 4,4'-ジアミノ-3,3'-ジクロロジフェニルメタンの藻類 (*Selenastrum capricornutum*) に対する生長阻害試験

試 験 番 号 : A 0 1 0 4 5 8 - 1

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 201「藻類生長阻害試験」(1984年)
- 2) 暴露方式: 止水式, 振とう培養 (100rpm)
- 3) 供試生物: *Selenastrum capricornutum* (株名: ATCC22662)
(現在 *Pseudokirchneriella subcapitata*と学名が変更されている。)
- 4) 暴露期間: 72時間
- 5) 試験濃度: 対照区, 助剤対照区, 0.900, 1.20, 1.60, 2.20, 3.00 mg/L (試験液調製可能最高濃度)
(設定値)
公比: 1.4
助剤濃度一定: 100 μ L/L (ジメチルホルムアミド使用))
- 6) 試験液量: 100 mL (OECD培地) / 容器
- 7) 連 数: 3 容器 / 試験区
- 8) 初期細胞濃度: 1×10^4 cells/mL
- 9) 試験温度: 23 ± 2 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明: 4000 lux ($\pm 20\%$ の変動内, フラスコ液面付近) で連続照明
- 11) 分 析 法: 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試 験 結 果 :

- 1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果, 暴露開始時の測定値の設定値に対する割合が, 61~63%と $\pm 20\%$ を超える値であったため, 阻害濃度の算出には開始時の測定値を用いた。試験液の状態(観察)は全濃度区において無色透明で浮遊物, 沈殿物, 油分は認められなかったが, 測定値が低く

なった。これは、被験物質の揮発性や加水分解性、光分解性等の知見がないことから、試験液調製に用いた被験物質原液（3 mg/L、目視における試験液調製可能最高濃度）における被験物質溶解濃度が、およそ1.89 mg/L（63％）であったためと判断した。

2) 生長曲線下面積の比較による阻害濃度

50％生長阻害濃度 EbC50 (0-72) : >1.89 mg/L (95％信頼区間：算出不可)

最大無作用濃度 NOECb (0-72) : 0.736 mg/L

3) 生長速度の比較による阻害濃度

50％生長阻害濃度 ErC50 (24-48) : >1.89 mg/L (95％信頼区間：算出不可)

最大無作用濃度 NOECr (24-48) : 1.38 mg/L

50％生長阻害濃度 ErC50 (24-72) : >1.89 mg/L (95％信頼区間：算出不可)

最大無作用濃度 NOECr (24-72) : >1.89 mg/L